

平成21年度 青森県森林病虫害等防除活動支援体制整備促進事業

青森県森林病虫害等 防除センターだより

No 34

2010.3



松くい虫被害が確認されたクロマツ(蓬田村玉松台スポーツガーデン)

青森県森林病虫害等防除センター

県内初松くい虫被害

平成22年1月21日、県は蓬田村の防風林のクロマツ1本に、松くい虫被害が発生したと発表した。詳細は次のとおりである。(記者会見資料から)

蓬田村内における松くい虫被害の発生について

1 経緯

東津軽郡蓬田村玉松台スポーツガーデン内のクロマツ(樹高26m、直径64cm)に松くい虫被害が発生しました。

- (1) 1月8日、樹木医が蓬田村玉松台スポーツガーデン内で、1本の枯損したクロマツを発見し、枝を採取の上、地方独立行政法人青森県産業技術センター林業研究所(旧林業試験場)へ持ち込んだ。
- (2) 林業研究所で簡易試験を実施したところ、1月13日に陽性反応が出たため、同日、独立行政法人森林総合研究所東北支所へ枝を送付して、詳細試験を依頼した。
- (3) 1月19日付けで森林総合研究所の試験成績(陽性反応)書が発出され、林政課が20日にその内容を確認した。



被害木から出た線虫(写真提供:青森県産業技術センター林業研究所)

2 県の対応

- (1) これまでの対応
 - ① 1月13日、林業研究所の簡易試験により陽性反応が出たとの報告を受け、同日、林政課と東青地域県民局が現地確認を行うとともに、1月19日から20日にかけて、蓬田村から外ヶ浜町(旧平館村)までの道路沿線や海岸線の目視調査を実施した。
 - ② 19日から20日の目視調査の結果、平館地区において3本の枯損マツを確認したため、材片を採取し、林業研究所で簡易試験を実施。結果は陰性。
- (2) 今後の対応
 - ① 蓬田村・外ヶ浜町の山間部の調査は、東北森林管理局等と連携して目視調査を行うとともに、ヘリコプターによる上空探査を実施する(津軽半島陸奥湾側)。
 - ② 被害木については、所有者(蓬田村)の承諾を得て、現場の積雪状況等を確認の上、速やかに伐倒・焼却処分を行うとともに、被害木に隣接する残り3本のマツ(アカマツ2本、クロマツ1本)については、林業研究所及び森林総合研究所等の指導を受け対応する。
 - ③ 今後の被害拡大防止対策については、林業研究所及び森林総合研究所等の指導を受け適切な対策を講じる。
 - ④ 1月28日に開催する「青森県松くい虫被害対策推進連絡協議会」において、国や県、市町村、森林組合等の森林・林業関係団体、造園建設業団体、J R等に注意を喚起し、監視を徹底する。
 - ⑤ 県ホームページ等による全県からの情報提供の呼びかけを行うとともに、住民に対し町村の広報等を通じ異常木の通報をお願いする。

松くい虫被害木伐採 カミキリ確認できず



伐採される被害木

青森県は平成22年2月10日、県内に自生するマツとして初めて松くい虫の被害が確認された蓬田村瀬辺地の玉松台スポーツガーデンのクロマツ1本を伐採・調査した。

調査は県と県産業技術センター林業研究所（平内町）、独立行政法人 森林総合研究所東北支所（盛岡市）の職員と同ガーデンを管理・所有する蓬田村役場の担当者も立ち会い、松くい虫被害を媒介するカミキリの活動状況を確認することに主眼を置き、カミキリが食害しやすい枝先を中心に樹皮を削って調べたが、越冬幼虫や食痕は見つからなかった。感染経路の特定につながる発見もなかった。

調査を指導した森林総研東北支所の中村克典チーム長は「センチウを持ったカミキリがこの土地に持ち込まれたのは確かだ。もともといたカミキリから広がった可能性は低いと」と感染経路について指摘した。



切り倒された被害木



カミキリ確認調査



森林総研 東北支所 中村克典チーム長より被害木についての説明

深浦町大間越「関所跡地のマツ」樹幹注入実施



マツ薬剤 樹幹注入

平成21年11月26、27日、青森県森林組合連合会が深浦町より委託を受け大間越関所跡地のマツ薬剤樹幹注入を実施した。

太さ（胸高直径）26cm～118cmの樹木43本に、420本の薬剤を樹幹注入し、今夏の松くい虫活動期に備えた。今回は平成19年3月に続く2回目。前回の薬剤は約3年の薬剤効果であったが、今回の薬剤は5年の薬剤効果が期待できる。



薬剤 樹幹注入



薬剤 樹幹注入状況



薬剤 樹幹注入状況

その他 森林病虫害等防除研修会・検討会

1 森林病虫害等防除研修会

平成21年10月19日、青森県と当防除センターとの共催で標記研修会が森林組合会館 大会議室で開催された。研修会には国、県、市町村、造園業者、森林組合などの職員40人が参加した。

研修会では青森県農林水産部林政課 森林保全グループ 主幹 飯田昭光氏が「今年度の本県松くい虫被害対策について」、地方独立行政法人 青森県産業技術センター 林業研究所 研究管理員 木村公樹氏が「マツ材線虫病発生のメカニズムについて」、独立行政法人 森林総合研究所 東北支所 チーム長（松くい虫担当）中村克典氏が「被害未侵入の青森県でとられるべき松くい虫被害対策について－植木・庭園木を中心に－」について講義した。



2 平成21年度松くい虫被害予防対策検討会

県林政課は平成21年10月20日、県庁会議室において平成21年度松くい虫被害予防対策検討会を開催した。

1. 参集範囲

有識者

- | | | |
|------------------|------|---------|
| ・秋田県立大学 | 名誉教授 | 小林 一三 氏 |
| ・山形大学農学部 | 教授 | 中島 勇喜 氏 |
| ・(独)森林総合研究所 東北支所 | チーム長 | 中村 克典 氏 |

関係機関

(地独)青森県産業技術センター林業研究所、各地域県民局、林政課

2. 検討内容

- ①外ヶ浜町事案以降に県が実施した対策について
- ②平成21年度松くい虫被害予防対策事業について
- ③マツノマダラカミキリ捕獲状況について
- ④近県の松くい虫被害状況について
- ⑤林業研究所の松くい虫被害予防関連研究について

主な提言

有識者からは松くい虫被害を防ぐために青森県は、国有林、秋田県との連携が必要と提言があった。



3 平成21年度青森県松くい虫被害対策推進連絡協議会

県林政課は平成22年1月28日、県庁会議室において平成21年度青森県松くい虫被害対策推進連絡協議会を開催した。協議会には国、県、市町村、鉄道業者、建設業者、造園業者、林業関係者などの職員62名が参加した。



協議内容

- (1)松くい虫被害の状況について
 - ①蓬田村松くい虫被害発生状況と今後の対策
 - ②全国・東北地方の被害状況
- (2)平成21年度松くい虫被害防止対策事業の実績について
- (3)平成22年度松くい虫被害防止対策事業の実施計画について
- (4)青森県松くい虫被害対策推進連絡協議会設置要領の改正について

※松くい虫被害発生を受け青森県松くい虫被害対策推進連絡協議会は青森県松くい虫被害対策協議会へと名称変更になった。

質疑応答にて

- ・平館の植木移入と関連があるのか
 - ・誘引器配置の見直しは
- などについて質問が出た。

ナラ枯れ被害対策研修

協議会終了後、基調講演「ナラ枯れ被害の現状と防除対策」について、山形県森林研究研修センター 森林環境部長 齊藤正一氏が講演した。

また「ナラ枯れ被害対策について」パネルディスカッションが行われた。

パネラーに

山形県森林研究研修センター

森林環境部長 齊藤正一氏

山形県農林水産部 森林課

森林管理主査 志藤 彰氏

コーディネーターに

青森大学大学院

准教授 田村早苗氏

を迎え行われた。



●発行●

青森県森林病虫害等防除センター

青森市松原一丁目16番25号 青森県森林組合連合会内

TEL 017-723-2657 FAX 017-723-1505

<http://www.aomori-pfau.or.jp/>